

「話す力・聞く力」を伸ばす
小学校高学年年間指導計画の研究

京都教育大学大学院 連合教職実践研究科
教職実践専攻 授業力高度化コース
126023 原田睦大

「話す力・聞く力」を伸ばす小学校高学年年間指導計画の研究

原田睦大

授業力高度化コース

要約：急速に広がる国際化や成熟した経済、少子化などによる社会構造の変化など目まぐるしく変化する社会で生きる子どもには、「他者と相互理解を図り協力する力」が必要である。しかし、現代の子どもを取り巻く環境は、遊びのデジタル化や SNS の普及等により、その力が育まれにくいものになっている。そのような時代だからこそ、「他者と相互理解を図り協力する力」の萌芽を小学校段階で育成する必要がある。その「他者と相互理解を図り協力する力」の萌芽を養うことに適した対話モデル及び満たすべき要素を村松(2001)は提唱している。本研究では、小学校高学年の2年間において、その対話モデルの満たすべき要素を児童に習得させるために、国語単元や学校行事、帯単元を有機的に関連させた年間指導計画の研究を行った。

キーワード：年間指導計画、対話、対話モデル、話す力、聞く力

1. 研究背景

これから急速に広がる国際化や成熟した経済、少子化などによる社会構造の変化など目まぐるしく変化する社会で生きる子どもには、「生きる力」に示されるように、「他者と相互理解を図り協力する力」が必要だと考える。しかし、現代の子どもを取り巻く環境は、遊びのデジタル化や SNS の普及により、生身の人間との交流の必要性を子どもが実感しにくいものになっている。そのような時代だからこそ、学校教育において「他者と相互理解を図り協力する力」を身につけさせるための手立てを講じなくてはならない。

教職専門実習Ⅱでは、「話すこと・聞くこと」単元の授業を実施した。「他者と相互理解を図り協力する力」の下部構造である「相手の立場に立った話し方や聞き方を心がける」ことを目標に授業実践を行ったが、国語単元だけでは児童にその力を身につけさせることは難しいことを実感した。「他者と相互理解を図り協力する力」の萌芽を小学校で育成するためには、国語単元だけでなく学校生活全体を通じた長期的な計画を立て、実践していくことが必要となる。

2. 研究目的

本研究の目的は、学校生活全体を通じた「話す力・聞く力」を伸ばす年間指導計画の作成をすることである。先行研究では高橋(1996)の「小学校第5学年 音声言語年間指導計画」が挙げられるが、国語単元のみ準拠したものであった。本研究では国語単元のみならず学年行事や学級活動、朝の会などを有機的に関連させた年間指導計画の作成を行う。

3. 「話す力・聞く力」の定義

本論では、年間指導計画を通して培う「話す力・聞く力」を「他者と相互理解を図り、共同的な対話を行う力」と定義する。

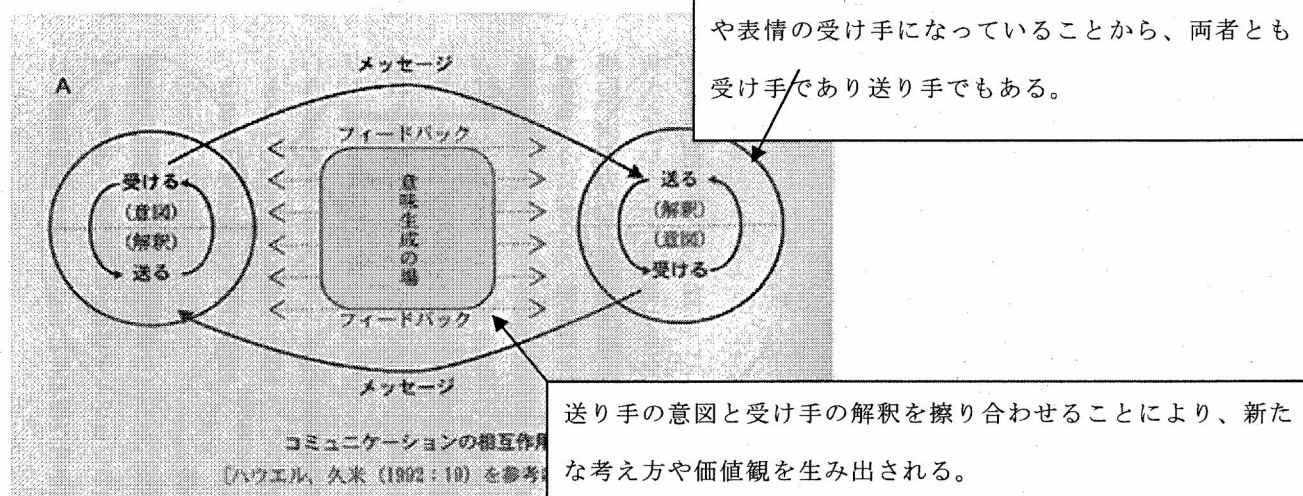


図1 村松(2001)が提唱した対話モデル

図1は、村松(2001)が「対話は創造的な共同作業を可能にするものである」という考え方に基づき提唱した対話モデルである。村松は次のような対話を成立させるために満たす3つの要素を挙げ、それぞれの要素をさらに細かく分類し、具体的な目標を定めている。

(※3つの要素の具体的な目標番号は、年間指導計画に記した番号と対応している)

○情意的要素……話し合うことは意味のあることであるという信念や人と関わりを持ちたいという意欲、課題遂行に対する責任感などの対話教育の大前提となる姿勢や態度のこと。

①対立を恐れず、論理的に話し合うことの価値を理解する。

②大きな一致点を探す気持ちで話し合う。

③納得するまで問い返す。

④自分の意見に対する批判を冷静に受け止める。

⑤当事者意識をもって粘り強く話し合う。

⑥自分の言葉に責任をもつ。

⑦相手の意見を尊重する

○技能的要素……対話がただの「言葉のキャッチボール」で終わってしまわず、「創造的な共同作業を可能にする」対話になるための要素のことである。この要素は、「聞く技能」「応じる技能」「話す技能」「はこぶ技能」の4つから成る。

表1 技能的要素をまとめたもの

技能	聞く	応じる	話す	はこぶ
具体的な目標	①話の内容を分類して聞く。 ②内容や根拠、「結論を生み出す過程」を吟味して聞く。 ③話をまとめ返しながら、相手の意図を理解しようとして聞く。 ④事実と意見とを区別して聞く。 ⑤相手がどのような前提に立って話しているかに注意して聞く。 ⑥聞きながら自分の意見をまとめられるようにする。 ⑦話の先をある程度予測して聞く。	①相手の発言内容を一般化する。 ②相手の発言内容を詳しく述べなおす。 ③相手の発言のあいまいな点を明確にする。 ④相手の発言に自分の経験などを付け加えて拡張する。 ⑤話を転換し、違った視点を打ち出す。	①聞き手の理解力に合わせて話す。 ②論理関係を明らかにして話す。 ③重要な概念は定義して話す。 ④相手の気持ちを配慮した反論の言い方をする。	①計画的に話し合い、目的から外れた時は途中で軌道修正する。 ②論点がずれないように話そうとする。 ③話の内容を深めるように話そうとする。 ④途中で、それまでの話をまとめながら話し合いをする。

○認知的要素……対話能力は気持ちと技能だけでは十分でなく、頭の働きを忘れるわけにはいかない。大きく「思考力」と「コミュニケーションリテラシー」に分けられる。

表2 認知的要素をまとめたもの

認知	思考力	コミュニケーションリテラシー	
		内容知	方法知

具 体 的 目 標	①物事の成り立つ条件をとらえる。 ②類推によって物事を想定する。 ③仮定推理によって蓋然的に判断する。 ④仮説を立て、それを（論証・実証）する。 ⑤物事の相関的な関係をとらえる。	①討論の社会・文化的意義を理解する。 ②討論の弁証法的性格を知る。 ③対話におけるフィードバックの重要性を認識する。 ④論理的思考の諸様式を理解する。	①ディベートの進め方。 ②パネルディスカッションの進め方。
----------------------------------	---	--	----------------------------------

さらに、村松は「この三つは相互依存関係にあるものと理解すべきである」と述べている。本論にて提示する年間指導計画は、これらの要素を満たすことで図1のモデルに示した「対話」の実現を目指したものである。

4. 高学年の「話す力・聞く力」を伸ばす年間指導計画

4.1 年間指導計画の特色

次頁、次々頁に掲げた表3、4の2年間を通した「話す力・聞く力」を養う年間指導計画を作成した。対象を高学年とした理由は、学習内容に討論やパネルディスカッションを取り入れることができるからである。討論やパネルディスカッションは、村松（2001）が『話すこと・聞くこと』の教育の旗を掲げるとして、そこに一つだけ書くことを許されるなら、迷わず『討論能力』を選ぶべきである」と述べている通り、これからの時代に求められる対話能力に直結するためである。これからの時代に求められる「話す力・聞く力」の学習は、高学年になって本格的に行うことができる。

本年間指導計画の特色は、次の3つに整理できる。

- 国語単元と学校行事を中核に置き、それらの内容に沿う形で学級活動や単元の学習を設定した。そうすることで、単元や学校行事で身に付けた力を継続的に伸ばしていくことができ、日々の学校生活を常に目標をもって行うことができる。
- 村松(2001)が提唱した対話の構成要素を身につけるための言語活動を設定した。その構成要素を順序良く満たしていくことで、児童が「創造的な共同作業を可能にする」対話能力を身につけることができる。
- 「発声練習」や「メモをとる練習」など、授業や単元以外に学校生活全体を通して「話す力・聞く力」を身につける時間を設けている。

表3 5年生の年間指導計画

		対話への意欲と他者を尊重する気持ちを養う 討論の形式を学び、基礎力を養う											
月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
授業	国語	「新聞を読む」 交流を深める レクリエーション	「きいて、きいて、きいて」 メロメロ新聞記者発表会	野外活動にむけた話し合い 野外活動後の発表会 (インタビュー形式)	問題解決型のレクリエーション	「豊かな言葉の使い手になるために」 討論会 新聞記者発表会 運動会	演劇練習 事後発表会	演劇練習	演劇練習 事後発表会	討論会 (新聞記事に基づいたもの) 一年生への読み聞かせ		「すいせんします」	6年生インタビュー 来年度の抱負
	学級活動												
学校行事													
単元	朝の会	自由型スピーチ(1分) 新聞記事の感想の提出(週1) 通年	自由型スピーチ(2分) 思考力①										
	日常的指導	発声・発音の練習(全体) 通年 (個人) 5月～ 視線・アイコンタクトの指導 メモを取る練習 3月 話型指導(音読、独話) 話型指導(話し合い) 話型指導(インタビュー)											

表 4 6 年生の年間指導計画

話の内容をメタ認知し、より良い話し合いを目指す													「創造的な共同作業」となる対話を体験する			
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
授業	国語単元		「学級討論会をしよう」													
	学級活動	言語レクリエーション	新聞記事の討論	修学旅行の事前計画の話し合い 修学旅行後の五年生へのポスターセッション	新聞記事の事前計画 新聞記事の討論	戦争・平和を題材にした討論	学習発表会の感想発表	学習発表会 (平和教育系の演劇)	パネルディスカッション	「言葉は動く」			情意② 聞く⑥⑦ はこぶ④ 思考力⑤ 内容知②④ 方法知②			
学校行事																
	始業式												卒業式			
朝の会		新聞記事の紹介(2分)(話題自由)											新聞記事の紹介(話題自由)			
		新聞記事の感想の提出(週2)														
帯単元	日常的指導															
		メモを取る練習 通年														
		発声・発音の練習(全体 個人) 通年														

情意②
聞く⑥⑦
はこぶ④
思考力⑤
内容知②④
方法知②

聞く③⑤
応じる⑤
内容知①③

応じる④
話す③
はこぶ①③
思考力④

聞く①②
応じる①②③
話す②

4.2 年間指導計画の実際

○5年生 4月～7月 テーマ：対話への意欲と他者を尊重する態度を養う。

概要

1学期は、授業、学校行事、帯単位を通して、「だれかに伝えたい」「相手のことを考えて話そう」「話し合いたい」という「話す力・聞く力」の基盤となる対話への意欲と他者を尊重する態度を育てることを目標とする。2学期からは本格的な対話活動を行っていくため、1学期でよりよい対話を行うための情意を中心に養う。

国語単元

4月の国語単元「新聞を読もう」を活用し、複数の新聞記事を参照することで、同じ事実でも扱い方の違いがあり、個々の記事には編集者の意図が反映されていること、1つの事実にも多様な見方、伝え方があることを学ばせる。この単元を契機にして、「新聞記事の感想の提出」や5月と9月の学級活動「新聞記事発表会」、3学期から行う朝の会での「新聞記事の紹介」など、新聞を用いた言語活動を多用していく。そのため、新聞記事に自分の意見をもつ習慣をつけさせる。5月の新聞記事発表会は、新聞の内容を自分の考えと照らし合わせながら1分間発表する形式であり、朝の会での自由型スピーチにも通じる。

5月の国語単元「きいて、きいて、きいてみよう」では、インタビューを通して、双方に新しい気づきが起こり、対話の有用性に気が付くことを期待する。この単元を通して、「聞く」「聴く」「訊く」と様々な「きく」があることを知り、年間指導計画における様々な言語活動で、どの「きく」が適しているのかをその都度考えさせる端緒にしたい。

この単元にはインタビューする役とされる役の他に、メモをする役があるため、5月から日常的指導のなかでメモの取り方指導、学級活動では「メモ名人大会」の時間を設けて、メモへの抵抗感を減らしメモをとる習慣をつけさせる。話の要点を整理しながらメモを取る力は、話の構成力を養うことにも大いに役立つ。

学校行事

6月の学校行事には、児童間の友情を育む重要な機会である野外活動がある。それに向けて4月から「交流を深めるレクリエーション」活動や、6月の「問題解決型のレクリエーション(グループでゲーム性のある問題を、話し合いを通して解決させる。全員が参加できるように形式を工夫する)」など、多様な言語活動を設定し、児童の交流を促す(情意⑤⑥⑦)。野外活動後には、5月の国語単元で学んだインタビューを活用し、児童間で「野外活動で嬉しかったこと、頑張ったこと」などを交流しあい、児童それぞれの思いをクラス

で共有することで、児童の他者意識を育てる。

帯単元

6 月には朝の会で行っていた 1 分の自由型スピーチを 2 分間に延長する。それは国語単元におけるインタビュー原稿の構想や、新聞記事発表会での発表原稿の構成を通して、文章の構成力の基礎が身に付いていると考えたためである **(思考力①)**。2 分間のスピーチで培った力は、9 月からの「ショーアンドテル」や国語単元「豊かな言葉の使い手になるために」の討論活動に生かす。

日常的指導の中では対話への意欲を養うために、発声練習や目線の指導、そして話型指導を行い、話し方や聴き方に自信をもたせる。目線、話型指導は基本的な形式を学んだ上で自己の形式を身につけることを目的とするため、長くても 2 カ月間に止める。

国語単元「新聞を読もう」の後から、新聞記事の内容に対して自分の意見をもつことを習慣化させるため、「新聞記事の感想の提出」を週 1 回で通年行う。この活動を通して、新聞に対する抵抗感を減少させ、5 月と 9 月の学級活動での「新聞記事発表会」や 1 月から朝の会で行う「新聞記事の紹介」に繋げる。

○5 年生 9 月～3 月 テーマ：討論の形式を学び、基礎力を養う。

概要

この時期は、6 年生にかけて継続的に討論を行うにあたって、討論の形式を学び討論の基礎力を養う期間である。他にも学習発表会で演劇を行い、普段とは異なる対話を体験させたり、異学年と関わる機会を設けて相手意識をもった話し方をさせたりして、多様な経験をさせる。

国語単元

9 月の国語単元「豊かな言葉の使い手になるためには」では、言葉の豊かさについて考え、自分の考えをまとめて仲間と討論をする。討論では、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことを重点的に教える。この単元で初めて討論を行うことから、どのように討論を進めていけばいいかを教える **(方法知①)**。討論の中で、他者の討論を評価しながら聞く観点をもたせることで **(聞く④⑤)**、よい意見の述べ方や討論の進め方や意義を考える機会にする **(情意①④、話す④)**。この単元をきっかけに豊かな言葉について意識をし、自身の普段の言葉を見直すきっかけにもする。

この単元をきっかけに、9月から学級活動に討論を取り入れ、身近な事柄の討論から始め、12月には新聞記事に基づいた討論を行うよう段階的に難易度を上げる(はこぶ②、思考力②③)。

2月の国語単元「すいせんします」では、推薦の意味と形式について学び、例文に習って他者を推薦する文章を作成し発表する。この単元を通して目的や意図に応じ、伝えるために収集した知識や情報を関連付ける力、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら話す能力を培う。この単元に備え、朝の会では11月から「好きな本の紹介」を行い、本の内容や選んだ理由を、聞き手が話を聞きたくなる工夫をさせる。この本の魅力を事実と感想を分けて伝える活動は、12月から行う「1年生への読み聞かせ」にも関連する。

学校行事

演劇はいつも同じ友達と過ごす児童に、狭いコミュニティから一瞬抜け出し、他者となって話をするという貴重な体験をさせる。11月の学習発表会に向けて、10、11月の学級活動では、演劇練習をする時間を設ける。朝の会でも、9月から自由型スピーチの代わりに「ショーアンドテル」を行う。この活動を通して、他者から自分が話している様子がどのように見えているのか、また明確に伝わるにはどうしたらよいのかという意識を養い、演劇の練習につなげる。5年生の演劇の題材は、より良い対話を行うための情意を養うことを目的として「友情・結束」などをテーマにしたものとし、6年生では9月の国語単元『『平和』について考える』と関連させ、「戦争・平和」をテーマにしたものを行う。学習発表会後には、学級活動の時間に感想発表会を設け、演じている時に考えたことや感じたことをクラス内で共有し、自分だけでなく他者の気持ちに目を向けさせ、他者意識を養う。

学級活動

10、11月の演劇練習や9、12月の討論会の他に、12月から「1年生への読み聞かせ」を行い、異年齢の児童への分かりやすい話の仕方を工夫する機会を設け、相手に応じた話し方を考えさせる。さらに「6年生へのインタビュー」を行い、6年生がどのような心境で卒業をするのかを知り、クラス内で共有し1年後の自分の姿を想像させる。そして自らが6年生になった時の抱負を述べさせ、これからの自分の学校生活への目標をもたせる。

帯単元

朝の会では、前述した9月からの「ショーアンドテル」や11月からの「好きな本の紹介」の他に、1月から「新聞記事の紹介」を行う。これは学級活動での「新聞感想発表」で培った「記事に自分の意見をもち発表する力」を習慣化させるための活動である。発表

を行う児童は、新聞の内容とそれに対する自己の考えを分かりやすく伝える工夫をすることを通して、より高度な文章構成力と文章読解力をつけることができる。一方で発表を聞く児童は、毎日新聞記事の内容に触れる機会がもて、新聞へ親しむ素地が生まれる。この活動は6年生では、年間を通して行っていく。

○6年生 4月～11月 テーマ：話の内容をメタ認知し、より良い話し合いを目指す。

概要

6年生は自己のメタ認知が可能になり始める時期である。そのため、5年生から続けてきた討論の内容をメタ認知し、より良い話し合いを目指す。6月の学校行事である修学旅行は、「話す力・聞く力」の実践の場であるので、事前・事後ともに周到的な言語活動を設け、自己の成長が実感できる場にさせる。11月の学習発表会では引き続き演劇を行い、国語単元『『平和』について考える』に関連させ、朝の会のスピーチや学級活動で「戦争・平和」を題材にした討論会を行い、当事者意識をもたせることで、演劇がより実りあるように工夫する。

国語単元

5月の国語単元「学級討論会をしよう」における中心となる言語活動は、主張→尋問→結論という流れのディベート形式である。討論を聞くグループを設定し、観点をもって話し合いの流れを把握する活動も並行させる。ここで重要なことは、話し合いを観察し、その論点や争点を見出す聞き手の育成である（聞く①②）。そして、討論を円滑に進めるための話し方も留意させる（応じる①②③、話す③）。これらの内容を達成するためには、多くの討論を重ね、経験的に技術を身につける必要があるため、5年生からの計画的な討論活動が必要になる。この単元を契機として5月から学級活動では継続的に討論を行い、さらに高度な内容の討論を行うための力を養う（はこぶ①③、話す③、思考力④、応じる④）。

9月の国語単元『『平和』について考える』では、教材文「平和のとりでを築く」を通して、日本人として知っておきたい史実や「原爆ドーム」が「世界遺産」になった経緯を学ぶとともに、自分の意図を伝えるために、どのような文章構成や用いればよいのかを学ぶ。そして学んだことを生かし、「意見文を書く」「スピーチで主張する」の2種類の言語活動を行う。ここでは「新聞記事の紹介」のなかで継続的に続けてきた経験が生きる。この単元で学んだ「戦争・平和」への考えは、討論や演劇など様々な言語活動の場で生かすことで、当事者意識をもった真剣な話し合いにする（聞く③⑤、応じる⑤、内容知①③）。

学年行事

6月の修学旅行に向けて、学級活動の時間を用いて、班ごとに事前の話し合い活動や調べ学習を行い発表させる。修学旅行という明確な目標のための活動は、児童の学習意欲をより引き出すものになる。事後には学んだことを学級活動において、ポスターセッション形式で5年生に対して発表させる。修学旅行を経験していない5年生のこと考えながら、どのように修学旅行での学びを伝えるかを考えさせる機会を設ける。(話す①)

11月の学習発表会では、9月の国語単元『『平和』について考える』や学級活動の「戦争・平和」を題材とした討論、朝の会のスピーチを関連させ日々の学びを生かす場にする。

学級活動

4月は新鮮な気持ちで学校生活を過ごさせるため、いきなり討論などは行わず、「言語レクリエーション」を行う。5月以降は「学校行事」や「国語単元」の項で前述したように、学校行事や国語単元で扱うテーマと密接に関連した内容で言語活動を行う。

帯単元

朝の会に4月から7月、12月から3月は自分の関心のある新聞記事を紹介するスピーチを行う。9月から11月までは国語単元に合わせて「戦争・平和」の内容の新聞記事に限定してスピーチを行わせる。その際、国内外の記事をインターネットを使って探させることも必要ならば行わせる。5年生では週1回、記事の感想を提出させていたが、新聞への抵抗感が減少するとともに、6年生からは週2回に増やす。新聞記事に対して自分の意見をもつ機会を増やすことで、社会の動きについて触れる機会を増やし、広い視野をもたせる。このことはより深い内容の討論やパネルディスカッションをするための手助けになる。

○6年生 12月～3月 テーマ：「創造的な共同作業」となる対話を体験する。

概要

12月から学級活動にパネルディスカッションを取り入れ、この年間指導計画の目指す「他者と相互理解を図り、共同的な対話を行う力」の育成にあたって最も高度な『『創造的な共同作業』となる対話』を体験させる。

国語単元

1月の国語単元「言葉は動く」では、言葉そのものを題材にして、自分の考えを構築するものである。現代とは違う言葉を使っていた人々の暮らしや心のありように思いをはせ、自らの言語活動を見直す契機にする。

3月の国語単元「今、わたしは、ぼくは」は、あらたまった場で共通語や敬語を適切に用いて話すことを重視した単元である。この単元は小学校国語の「話すこと・聞くこと」単元の総まとめであり、2年間の年間指導計画の最終ゴールであるので、今まで培った話の仕方、構成力を発揮する場である。「自分らしい」話題を練る時間を多く設定し、発表練習も行わせることで、発表会では話す側と聞く側ともに実りある時間になるように工夫する。

学級活動

この期間に設定したパネルディスカッションは、これまで行ってきたインタビューや話し合い、討論などで培った力を活用する場である。パネルディスカッションが討論と異なる点は、勝敗を決めるものではなく、クラス内で様々な意見を交換し、そのテーマへの理解を深めるところにある。この過程を通して、みんなの意見が合わさることで一人では考えつかなかった新しい案が出せることを知り、話し合うことの大きな意味を体験させる。議題は児童から集めた記事の中から多くの関心が集中したもので且つ児童にとって身近なものにする(情意②、聞く⑥⑦、はこぶ④、思考力⑤、内容知②④、方法知②)。

5. 今後の課題

本研究では、「話す力・聞く力」を伸ばすための年間指導計画を、先行研究を踏まえて作成した。今後はこの年間指導計画を実際に教育現場で実施し、地域や児童の学びを評価しつつ、計画の改善を図っていきたい。

6. 引用文献

- ・妹尾彰(2011)『新 NIE 実践ヒント・ワークシート集—新聞を楽しく読んで考えよう』晩成書房 pp10-11,pp50-51
- ・中川一史、高木まさき(2003)『光村の国語 調べて、まとめて、コミュニケーション④ 発表・討論チャンピオン』光村教育教科書株式会社 pp.4-5,pp.8-15,pp20-23,pp.28-31,pp.36-43
- ・平田オリザ(2012)『わかりあえないことから—コミュニケーション能力とは何か—』講談社 pp.26-27,pp.198-200
- ・村松賢一(2001)『21世紀型授業づくり 17対話能力を育む話すこと・聞くことの学習—理論と実践—』明治図書 pp.36-38,pp.46-51,pp.76-78,pp.125-127,pp151-154